

きほく通信

第5号
2007年
9月1日
発行

那賀地方
患者家族会
きほく

会長 吉村由里子
【相談室】07336(77)5161
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田敏子方 0736(75)4413

JPA近畿ブロック交流集会

7月21日～22日

神戸の山ふところ、北区里山にある「神戸しあわせの村」で、102名が参加して開催されました。

和歌山からはリウマチから2名、近畿つばみの会から1名、パーキンソン病から2名、心臓病から1名（初日のみ）が参加しました。



【記念講演】

フルーティストの奥田良子さん（写真左）を迎え、「心に響く愛の音色〜難病と向かいつつ〜」と題してフルートとオカリナの演奏に加え、「クローン患者」としての奥田さんご自身の体験談をお話いただきました。



15歳からフルートを始め大阪音大入学後、4年生の春にクローン病を発病。繰り返し返す再発と手術などで5年間自分の殻に閉じこもってしまわれました。

そんな折、フジテレビの「アンビリーバボー」で取り上げられ、04年ご主人と共に演奏活動を再開。

一生治らない病気でも、死ぬことはない。「生きていか

なければならぬ」と、自分の活動を通して、同じように苦しむ悩んでいる人に「夢をあきらめないで」と伝えている。

【緊急提案】（写真下）

和歌山県難病連の森田会長から新潟中越沖地震に対するカンパの募金が提案されました。カンパ金は75,600円にのぼり、新潟県患者家族団体協議会に届けられました。



【分科会】

「就労支援」「災害時対応」「難病対策基本法」と疾病団体別交流として「肝臓病」「心臓病」「潰瘍性大腸炎」「パーキンソン病」「希少難病」に分かれて開催されました。

【交流会】

各県ごとに歌などの発表があり、笑いの絶えない楽しい親睦交流会でした。

来年は京都での開催が決まりました。

【絵はがき販売】

今回の近畿ブロック交流会において、和歌山からの参加者全員で敦ちゃん（写真下）の絵はがきを販売しました。

多くの参加者の共感をいただき30組の絵はがきを販売しました。

（写真下）



敦ちゃんの絵はがき販売順調

打田

町在住の会員神森和子さん敦子さん親子のご了解をいただき、敦子さんが描かれた絵を絵はがきにして販売し、その売上金をきほくの会計に収めさせていただきます。

【写真左絵はがきの一部】

8月現在、3160枚を販売し、必要経費を除いて約13万円を会計に入金しています。この絵はがきの販売は主に神森さんのお世話になっています。まさにきほくの収入は神森さんに「おんぶにだっこ」という状況であります。



会費納入のお願い

現在、紀の川市から補助金をいただいているところではありますが、紀の川市から「補助団体は会費を徴収していることが原則」との指導もあり、そこで皆さま方に年間の通信費の約2分の1である金500円を年会費として納めていただければと考えています。

別紙にてお知らせ申し上げますので、何とぞご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。